



大西園府 卷四

洋学文庫
文庫 8
F 2
2



大西

園府

卷之四

從第四十九版
至第七十六版

第十一版
第一版

仙窟

仙窟六十七

第四十九叙

仙窟ある好風景

仙窟ハ半天竺のハ古石一歳月して屋多にて築き茅葺くハ藤つらを屋と成

後面の室ハ木柱天竺のを立兩柱の間ハ水楊の垂つら随つら七小枝

を標えて壁とありて下に掲つら辛つら多る地つら登つらハ其

餘造立の状を明つら知つらふつら也屋の前面に一區の

田つら畝つらあり溪流環擁つらハ溪つら小橋つらを架つらハ若し橋邊に美木つら也崖

陰翳つら也此風景ハ殊つらに人つらをつらて途趣つらハ堪つらハつら



仙窟六十七



第五十段

一号

一 小竇庫

某距離の地より望むハ壯麗なる様ニ着色
を以テ蛇れども其実ハ價を賣やまると甚
大カ

二号

漁家

天然の木にて造リ水楊の枝を集めて壁し
あり乾き多ク水草を以て屋を葺く天然の
を以て水草に代ふる可なり
或ハ白楊類の中水楊

knappelt?

三号

水流甚小多うさる者の序頭ニ此屋を造リ
て柱とて好し

洞開せる方亭

木柱及木材を以て造リ茅蔭を以て屋を
葺き是れを小高處ニ設テ大に景色を助ス

四号

苔を帯多ク子ノルノ橋



第五十二叙

支那の二舟を寫す

支那の風を建築に競用は殊に殿堂及小木材の結構に倣ひ用ゆるは當世の流行あり此風は遠りある舟は我國にて見る至て稀にして其風致極めて可なるものあり然るに遠作も頗る便捷なるは二理を兼ぬれば採用せざる人ありは多きを知らず其上圖ハ殊に其微を見るに足る

第五十三叙

一号

田家

其棟出せる茅葺の宇ハ苔蘚を帯い多る柱にて支ふ周圍の壁ハ古石古木を用て築き古色を帯い多る石の如く着色す外相ハ古朴と見ゆ不中扉の口は入れハ甚精密細緻巧なる堂あり下の

二号

直截圖ハ其形を寫す結麗土豊後土白を用

て塗り多る壁ハ白く且青し其造作總て
精巧又造り出すべし遊客ハ戸子入来るま
てハ其華多る堂の模様外ハ見下せ木構不
深く 電ヲを好と此造建ハ銀々女々次
人意子遠し快を叫ハハ也

一七九

一七九

第五十四段

第五十四段

一七九

風流奈る度屋

此屋ハ遊容散の間に對向せる高處に對
し其造るを自然の形勢と次然れと造宜
に其位置を設け先づ前其屋の内方面を見次すて歩行
して側面を見終に後面の塔の傍に来るに
及んで其處の景色清幽雅なる様を造るを好
二と次或ハ是れを扁年奈る屏上に乘せ高處
子向ゆる樹下に置ても得多し但し小塔ハ

其真物有書を造建せるを好と次

二号

此廢屋一字ハ用事ノ所種々一なる也

第五十五級

大厦屋ある地基の一部其原屋ハ大道と屋渡り越り水噴渡りの

間あり

〔以〕符ハ石灰埴の橋上ニ鉄柵を領可門

〔呂〕符ハ砂地シラシラ兩行に樹蔭多き喬木を植ゆ

〔波〕符ハ大厦屋

〔仁〕保符ハ厩車廠園吏の居住

〔邊〕符ハ獸園ノ入口

〔至〕符獸園内の水

〔知〕符ハ牛畜の園及孳生場

區道

利符ハ花を植^天る風景の地

遠^符ハ高木を植る草野^樹下に園棚^其を置く

和符ハ薔薇叢

加符ハ水邊の^小舎

奥符ハ水邊の列植道^樹髪直なる者^{ナミキハミナ}但し^其一側^{カクガワ}に

① 木を植ゆ

大符ハ木を栽へざる草野河を渡る景色を見
る可為なり

禮符ハ橋

曾符ハ小憩^{花下の}所

江津符ハ祠堂

福符ハ花を栽へる地

奈符ハ小憩^{花下の}所

直符ハ由楊叢^{水に沿へる一方}其道傍水邊ハ木を栽ゆると

奈く同敵せる草野あり

江津符ハ祠堂
福符ハ花を栽へる地
奈符ハ小憩所
直符ハ由楊叢其道傍水邊ハ木を栽ゆると
奈く同敵せる草野あり

第五十六段

小なる別荘の下部の間二條の道あり合して
一と多る其毎區の形ハ割制地基を採用す

〔波〕符ハ浴堂

〔宮〕符ハ大厦屋の座下に附り侍者の居住の
為に造れる小屋位一樹木を植へて甚處を蔽

ふべし

〔波〕符ハ浴堂

〔仁〕符ハ路傍小舎兩路相合する所ニ在り

〔俣〕符ハ廊

〔邊〕符ハ大道

〔登〕符ハ木を植ふる縁野

〔和〕符ハ緑野の間ニ在る盆種の花景地

〔利〕符ハ松柏を植ふる縁野大厦屋の四面障子を

敷く俣花車ハ丸敷ニあり花叢を造るハ

大厦を蔽ふた之を花叢ニ區を設くる外

〔返〕符ハ小葦園を隔つる塀

〔留〕符ハ小柵門

〔遠〕符ハ大柵門

〔和〕符ハ池水大厦屋より北景眺望すべし

[加] 符ハ水に架せる橋、
 [奥] 符ハ洞開七小祠堂、道の地より、望れを望む
 ハ其景色、畫圖に譲るべき也、
 [太] 符ハ兒女子の戯場、抛球、鞞、索、宜、
 [禮] 符ハ園房、
 [道] 符ハ緑野の開敞せる地、暖舎を設く、北地より望むハ風景出麗あり、

第五十七飯

頃、精大なる別業の閑寂なる一部は、校隘出微子
 して曲折せる小逕を通ず、あれを進むハ風景次第に
 蔭森とある、逗の窮する所、墓あり、右門
 の上に簡約なる死眞を述べ多る文あり、老人の
 心神を感懐せし、大字、蘇、刺、落、模、索、下、終、に、某、字、を
 辨すべく又寫すべし、死者、ハ、起、の、墓、所、の、人
 親戚中、中、朋、友、若、く、ハ、女、友、亦、ハ、其、記、念、碑、の、側
みて、費へ、日、數、時、を、費せしむるを要す、北門
 を過れば、北、地、清、楚、なる、記、念、碑、あり、老、木、扶、疎、畫

第五十九段

魯西亞風の民家

民家に至る橋及民家も共に^{彫琢}彫琢を加へざる
樹木及鋸解木材を用て造る^り四柱^{を以て}露棚を
穿く^る庫の樓上より此棚を来す^{べし}一屋ハ茅萩^{モリホシ}
若くハ麦稗^トにて葺く^{べし}

下は掲ぐれる地基を觀れば此圖に載せせる
内外の結構自瞭然多り^り此れとも其用る人と
致る^る所も随て自^カ區劃を殊にも^{べし}一假令ハ

馬廐羊園園吏の居住或ハ夏日の住處とる^を等

可知一^一天竺の風趣ある地は此屋を造る^{べし}殊
に好^く其費用も亦少可る^{べし}一若^し其材料近
地の樹林より採る^{べし}尤便易なり

[Faint bleed-through text from the reverse side of the page]

第六十致

四方同開敞せる亭

樹林及諸種の權木草花を雜植せる林中に設
くし

小亭して巧小造りある風景の地小設きて好

此園の下に鋸解木材の椅卓及同様の木よて

獨樹を擁せの四面を踞床あり

第六十一致

一号

外面ハ古くして顔敗せると見ゆ家ありとも

内部ハ雅潔に區畫せる序室ありて下に客一

區あり

二号

別荘の内或ハ其四隣に顔落の草廠其他のあり

餘の教風景の物ありを害する物ありも取除くべし

ハ止む事を得ば林木を植へてそれをも屏翳を

る等の事あり是の如ありあり小造りハ木屏

を造る意匠を用て其上に画くより^{を最好集}上世と次
布おれゝ為に顔屋の圖を掲ぐ、^{おれ}おれを好距離
の地お置ゝ、^{おれ}おれ風趣を生もるゝとあらん。

第六十二段

一号

がアナといへる田獵の神の祠並^{添へ}木屏上
よちれを画く此物ハ大に風景を^用振舞且其後
面おある所の雜籠を屏障と^用るゝ

二号

一部^{地を}の廟堂^お
綿布上に画く^お開敞せる^お林中小^お樹枝
掛く

三号

仙窟の一種島上の水に近き處に造るべし

此仙窟ハ地陸の塘上より眺望して甚風色を兼成照

も此仙窟の景を一たび見失ひ多々後自ら此

島小道とる橋の傍に来る此仙窟の内面ハ

好に應じて巨画すへし中中に就て好書を置

り披閱の間怡悦不して一二季を消遣せて

て尤妙と云

野外の閑寂に耽る人ハ如是仙窟の中に坐

して其獨自其樂其を其深其く其筆紙其不其載其る其

書其を其解其小其さ其る其べし

第六十三段

一別業の地基中に大道通達あり分れて二區とあり

其一邊ハ列應川和氣國中を帯ふ

又河岸中の正家屋大河の名

列應河の方ハ渡船の往來儀が如く近村

の景色目の中に現し一方ハ道衢の往來

去し且造を隔てたる別業の風景又面目を

一新と

〔宮〕竹馬厩車廠及園吏の家

〔波〕河畔高處の祠堂

〔仁〕符ハ鉄の柵門

〔保〕符ハ牛羊の園其傍に藁丘あり農家の趣を
想見するべし

〔邊〕登二區の蔬園

〔知〕符一憩場（幾所）を供ふ

〔利〕符洞開せり小祠堂此處より園中の景眺
むべく又牧場を望むべし

第六十四段

○狭小細巧の地基に就の同種の草花を分植
しそのに造す

〔徑〕呂波の符群を画する（地）區ハ灌木の藪小なる

者及常（緑）の草を分植するに宜しと其餘符群を

き者ハ毎區喬木を分植し及下に草叢を生じ

る處に常緑の灌木を植へし

都府の傍の小園（亭）或ハ大別荘の一隅の別區
に此景を設きて好し

園所圖解卷之

第六十五版

支那鵝墩

華羅小して大厦鉅屋より遠き別業の風景より
富める地より此鵝墩を作るときハ殊々好し
地基を照し視ハ鵝架の制作審り子居るよ
足らん

此鵝墩ハ其下身を何れも其事を要せざる
ものハ之を一林中に建し其下身に粗材よ
て造るべし其屋上字邊ハ薄き鉄板よりハ

支那鵝墩の制作法

銅の鍍金セカミのを以て飾りとし其中心の柱ハ動ク其上部ハ回旋且〜く造る〜し微風何れも回轉して耳目を樂ましむ

第六十六版

石碑

和蘭子在りてハ朋友親戚の遺骸を自己の園庭ニ葬ル風習ふしと雖も石碑を建るも亦可有此を以て爰ニ三箇の小兒の石碑を擧ぐ

此種の石礪ハ小園中ニハ相應セバ別ニ一

小區を開て之を建つるし此小區ハ園林を造るハ或ハ偶之を要ルこと有り此景を造るハ人をして悽愴の情印〜中ニ動かしむるを要に〜し

第六十七版

小築

此家ハ恰好く着色して遠く之を望めハ鉅大と省做そやうと造る〜し其費ハ至て少

四壁ハ石灰を施し或ハ外面より帯皮木材にて被

ふゆし其状圖を見て知らし
聖土若くハ石灰おく或ハ必し之用ふるを要也
さるものハ尋常の木板を帖し其上は帯皮
木林を釘して可有ハ此ものハ遠方より望
て鉅大の状を現るやうに造るべし

二号 三号

門

此門ハゴツキセ風を傲ふて造る上の小築子
並列樹の道よ入る口端に設くべし

四号

橋

同上の風を傲いたるもの橋の中央は格子
を造るときハ藏イタ所若しくハ集イタ飲イタの用を
考見

第六十八版

一号 二号

茅屋

此茅屋ハ極りて簡易にして其用甚だ多し
之を造るにハ殆ど些子の金とハ費乏ん其
材ハ天然の木柱ハ新及ハ茅葺ハ許を用ふ

ちのこころして其他ハ用ふるところありし

第六十九版

一号

十古制の墳墓

二号

同上の門

是を造らばハ板上下画いても遠望の風景を

添ふべし

三号四号

橋

着米して古色を現はせし

五号

古制の橋

古風を存する造營の傍幽陰の物と配合し

て至妙と見

第七十版

假堂

幽寂にして崩散せし丘上ニ虚假の堂を造

此ハ殊ニ其景致を増し

若此堂を以て人目を驚く其具とありんし

欲せば此着来せし面を應乎と造り其背に
杜藤あり一室を藏るを好むは但遊行し
て此地に至るもの其画々たる一面を見るの
とあるを要に述し

第七十一版

一号二号

林造小廠

其実ハ藤木ありて大ニ景色を生し其用畫
の如し茅萩若くハ禾稈の簾ニ種々の蔓草
を攀縁せしむ

第七十二版

小林園二箇の地基

一号

眇小よりて細密なる設施の地基若其地面大
なるもの本園に掲ぐる尺度を用ひて之を
造るべし崩大なるハ宜しくふん

以^符入り口^{此経}橋を越えて^標も末る

園符ニ花を着けたる藩木の樹下^の小亭^の下は循ひ行く

波^符一此地^の後より一簇の白楊を栽也更ニ橋

を越えて行けハ此時

〔三〕符^め時小殿堂の傍に來る

〔保〕符殿堂よりして小丘上子在り此處より望め
は水を隔てて好風景を看る其池水は

〔遷〕符樹陰に没る

丘よりして

〔土〕符の一小憩所は遠に風景蕭索密樹枝を交
ふ此地ハ池を穿ち金鯽を畜ふ流鱒の間客之
み食を餌するに宜し

其後客後面の林中に入り隨意に道遙し〔知〕符
の地子至て終る

〔利〕奴留符ハ長大なる灌木を栽ふるの地

〔遠〕和加興符ハ矮生なる灌木を栽ふるの地

〔太〕礼豆津^称符ハ諸種の蓄薇を植ふ

〔奈〕符ハ諸種の松樹と散植する地其下は^{草花}を種ふ

〔良〕符ハ高聳なる山上の砂地下に臨み人を

して目眩せしむ大木蔭翳其下は教脚の園
桐を置く

二号

〔返〕符ハ小屋路傍の十丘上子在り後より水を帯
ふ

〔呂〕符其水の一半を寫す

〔波〕符ハ金集池

〔仁〕符ハ盆種の花木を置て器に満つ

〔保〕符ハ斜りして漸く高き地松及他木を植

ふ

〔遷〕符ハ斜りして漸く上る地其地ハ盆種の

橙等を植て頂に至る橙及他木ハ盤に植えて

高處に置き其下ハ灌木花草を盆植し界中

偏くに

〔土〕符ハ花を着けた樹下の無所

〔知〕符ハ松樹を散植し園柵二脚を設く

〔利〕〔丑〕〔遠〕〔和〕符ハ球根草及以他の矮小なる花

草を植ふる地

〔加〕〔興〕〔太〕〔礼〕〔曾〕符ハ花を着くる灌木及大木を植

ふ

〔津〕符ハ柵樹を植ふる野下に種ふ

〔秣〕符ハ薔薇

〔季〕〔良〕〔武〕〔宗〕符ハ菓實を結ぶ樹

〔井〕符ハ着米せる畝其中に諸器械を藏す

第七十三版

一号

扉糙ふして費用低き小築俄羅斯の風を摸倣
此

其四壁を圓材を切組にて之を疊疊し扉糙
ある柵杖を骨とふして其上に茅荻禾稈を
蓋ふて其屋とに

室内の區別ハ意に隨ふ處し但し造築の間
其用い人と欲せると此の意に隨ひて之
を度々し若し室内を區分せむ廣大なる

室とふせ及ビルヤルト球突掙いと誤を一
種西洋の掙戲の台
及び其他の諸戲を演ぜるに宜し

二号三号

翻折此處を圍楯

摺折せるを以て人の坐るべき面を外に在
りて雨露を被るべしとて毎に濕ふこと
ふし

四号

圓卓木材上は植つ

第六七版

第七十四版

上篇已ハ教種の墓表を載ルル我門生存の間ハ
追隨して去りたるものハ死ふり今其死者を葬
想をなるときハ此表を建つるを要を極し
今ハ爰ハ廿天の墓碣四座を掲ぐ抑犬ハ誠ハ人
の友と稱す一ハ此碑を見て懐旧の想を動り
子至る

第七十五版

一号

園榻園椅

林園を修する間古林を剪伐して他景とな
るを當て老大の木株を見ること多し此株
を活用するハ必法あり稍株下周囲の土
を高くして小丘を造り其上ハ榻^椅を造る

二号

宛然佳趣 河名木橋両側ハ鉄鏈を張り攀縁を
一き索とす

第七十六版

一号

景趣爰にへき屋宇向る休亭

二号

墓碕

三号四号

園椅及木材の食卓



